

瀬戸内海の昔と今

- 暮らしの移り変わりから将来を考える -

開催結果の概要 (平成28年9月8日～9日)

趣旨

瀬戸内海は、高い生産性を中心とした多様な機能のゆえに周りにすむ人々と深い関わりを持っているが、環境や社会構造の変化により、その関わりのある方もまた変化を続けてきた。このような過去から現在の変化を見つめつつ将来を考えることは、瀬戸内海研究フォーラムにおける持続的なテーマである。本フォーラムの第1セッションでは、これまでのフォーラムではあまり取り上げられてこなかった瀬戸内海の古代に光をあて、環境やその変動に対して人々がどのように対応してきたかを議論する。第2セッションでは、過疎化や水産業の衰退等の様々な問題が生起している海村地域において果敢に地域づくりに邁進している女性の皆さんに、その活動実績を紹介してもらいながら、今後の産業振興や地域活性化のあり方について検討する。最終セッションでは、近年、西瀬戸海域を中心に猛威を奮い、養殖業に脅威となっているカレンシア・ミキモトイ赤潮に焦点を絞り、その原因や魚類の斃死機構、対策などについて深く掘り下げる。



日程・場所

平成28年9月8日～9日 愛媛大学南加記念ホール、大学会館2階(愛媛県松山市)

主催・共催等

- 主催：特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議
- 共催：瀬戸内海環境保全知事・市長会議、愛媛大学
- 協賛：(公社)瀬戸内海環境保全協会
- 後援：環境省、愛媛県、松山市

瀬戸内海研究フォーラム in 愛媛 運営委員会

- 運営委員長：武岡 英隆(愛媛大学南予水産研究センター長、瀬戸内海研究会議理事)
- 運営委員：郭 新宇(愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授)
- 森本 昭彦(愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授)
- 吉江 直樹(愛媛大学沿岸環境科学研究センター講師)
- 安藤 公一(愛媛県県民環境部環境局環境政策課長)
- 松本 典洋(松山市環境部環境指導課長)

9月8日（木） 開会式

瀬戸内海研究会議の柳哲雄理事長、瀬戸内海環境保全知事・市長会議の会長である兵庫県より春名克彦氏（兵庫県農政環境部環境管理局长）の主催者あいさつに続き、環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室の坂口隆室長補佐と愛媛県の石丸猛男県民環境部長よりご祝辞を賜りました。また、フォーラム運営委員長を務められた、愛媛大学南予水産研究センターの武岡英隆センター長より趣旨説明が行われました。



開会あいさつ



あいさつ



ご祝辞



ご祝辞



趣旨説明

第1セッション「瀬戸内海的环境と古代社会の生業・交通」

◆コーディネーター

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長 村上 恭通



◆講演テーマ

- ①人と砂丘の葛藤史ー山陰地域を中心にー
公益社団法人 鳥取県教育文化財団調査室 文化財主事 河合 章行
- ②瀬戸内海沿岸地域の環境変化と人々の対応
愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター 准教授 榎林 啓介
- ③原始・古代の瀬戸内航路
愛媛県教育委員会文化財保護課 文化財専門監 谷若 倫郎



◆内容

本研究フォーラムではあまり取り上げられてこなかった古代に光をあて、環境やその変動に対して人々がどのように対応してきたかを講演、討論していただき、また、考古学だけでは解明できない問題（気候変動や津波による影響等）との関係について、今後、瀬戸内に係る様々な分野の方々からの見解をまじえつつ解明、研究をしていきたいと総括していただきました。



第2セッション「海村地域における女性目線の「まちづくり」～地域での「価値共創」の本質に迫る～」

◆コーディネーター

愛媛大学南予水産研究センター副センター長・社会共創学部教授 若林 良和



◆講演テーマ

- ①しまなみの暮らしとサイクルツーリズム
特定非営利活動法人シクロツーリズムしまなみ 代表理事 山本 優子
- ②漁協女性部の活動と起業化への取り組み-浜のかあちゃん、やる気・元気、奮闘記-
スリーラインズ株式会社 代表取締役 山内 満子
- ③地場産水産物の普及と流通・販売
有限会社エスペランス 代表取締役 安部 有里子



◆内容

水産や島の活性化について講演、議論をしていただきました。内容は三者三様でありながら、過去を振り返り、見直しつつ、自分たちが楽しむことを前提として、様々な人を巻き込んで新しいことに挑戦する、このことは講演者の共通事項であり、将来を考えていく上で、地域での「価値共創」の第一歩であると総括していただきました。



9月9日(金)

第3セッション「環境保全・創造に関する研究・活動報告(ポスター発表)」

◆コーディネーター

愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授 森本 昭彦



◆内容

瀬戸内海周辺地域を対象とした環境保全や地域振興等の取組について、学生や研究者、民間団体等、様々な立場の24の方に口頭発表とポスター発表をいただきました。



| ポスター発表題目 | 氏名 | 所属 |
|---|---------------------|-------------------------------|
| 地域の食文化と自然環境・社会環境とのかかわり | 長谷川 路子 | 京都大学学際融合教育研究推進センター |
| 和歌山県田辺市鳥ノ巣半島における里山ランドスケープの変容 | 黄 琬恵 | 京都大学学際融合教育研究推進センター |
| 半島性小集落における生活を通じた自然資源利用の変遷 和歌山県田辺市鳥の巣集落の事例 | 峰尾 恵人 | 京都大学大学院農学研究科 |
| 1年以上続く「山の暮らし」の解明 | 遠部 慎 | 久万高原町教育委員会 |
| 瀬戸内島嶼部の無人島化阻止に向けた地域再生のためのエコツーリズムの運用 ～地域着地型観光（DMO）の構築と運用～ | 藤元 彰士 | （一社）瀬戸内海エコツーリズム協議会 |
| 絵画の内容変化からみた幼児向け海辺環境学習の効果について | 松重 摩耶 | 徳島大学大学院先端技術科学教育部 |
| 香川大学Bonsai☆Girls Project～2015年度の取り組み～ | 入江 美聖 | 香川大学経済学部 |
| 香川大学小豆島SAKATEプロジェクト～2015年度の取り組み～ | 白石 菜摘 | 香川大学経済学部 |
| 香川大学直島地域活性化プロジェクト～2015年度の取り組み～ | 大野 あゆみ | 香川大学経済学部 |
| 瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての取り組み ～海底ごみの「つながる化」プロジェクト～ | 山陽女子中学校 ・高等学校地歴部 | 山陽女子中学校・高等学校地歴部 |
| 大阪湾圏域の干潟におけるマイクロプラスチック研究 －マイクロプラスチックに関する市民の意識－ | 中尾 賢志 | 大阪市立環境科学研究所 |
| 指標評価手法と分類調査の組合せによる簡易な海岸漂着ごみ調査方法の提案 | 田所 史法 | 香川県環境森林部環境管理課 |
| 孟宗竹を用いたアサリの育成試験－新たな流域連携手法の検討－ | 惠本 佑 | 山口県環境保健センター環境科学部 |
| 多層水温データから小規模内湾における海水の日交換率を求める手法 | 河原 一喜 | 愛媛大学大学院理工学研究科 |
| 大阪湾沿岸域の地形変化が流動・水質・物質循環に及ぼす影響 | 中谷 祐介 | 大阪大学大学院工学研究科 |
| 大阪湾流域圏における栄養塩フローの解析 | 西田 修三 | 大阪大学大学院工学研究科 |
| 河川での全りんの流出負荷量に与える降雨影響について | 村松 和夫 | 大阪工業大学大学院工学研究科 |
| 加古川流域における降雨時の窒素、りん負荷量の変動 | 古賀 佑太郎 | （公財）ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター |
| 武庫川上流域における窒素、りん及びCODの濃度変動 | 松林 雅之 | （公財）ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター |
| 西部瀬戸内海における栄養塩濃度変動とメカニズム | 吉江 直樹 | 愛媛大学沿岸環境科学研究センター |
| 香川県新川・春日川河口干潟域における栄養物質と底生生物の分布 | 深尾 剛志 | 香川大学農学部 |
| 古海洋学からみた豊後水道沖陸棚斜面上の湧昇強度の長期変化 | 加 三千宣 | 愛媛大学沿岸環境科学研究センター |
| 豊後水道における異常水温の発生とその要因 | 山田 彩加 | 愛媛大学大学院理工学研究科 |
| 豊後水道における外洋水進入現象の数値的研究 | 久保田 祥隆 | 愛媛大学大学院理工学研究科 |
| 船舶データを用いた瀬戸内海西部における海面衛星データの精度評価 | 中川 美和 | 愛媛大学大学院理工学研究科 |

※ 山陽女子中学校・高等学校は都合によりポスター掲示のみ

第4セッション「宇和海における *Karenia mikimotoi* 赤潮の現状と対策」

◆コーディネーター

水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 有害・有毒藻類グループ長 鬼塚 剛



◆講演テーマ

- ① *K. mikimotoi* の生理・生態特性
水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 研究員 紫加田 知幸
- ② 宇和海における *K. mikimotoi* の発生の特徴と被害状況
愛媛県農林水産研究所水産研究センター 主任研究員 久米 洋
- ③ 宇和海の海洋環境と *K. mikimotoi* 赤潮の関係
愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授 郭 新宇
- ④ *K. mikimotoi* の早期検出および防除技術
愛媛大学南予水産研究センター 准教授 太田 耕平



◆内容

「宇和海における *Karenia mikimotoi* 赤潮の現状と対策」をテーマに講演していただきました。講演内容は、いずれも現在進行形で行っている最新の動向を含んだ研究についてであり、今後も被害の軽減を目指して、引き続き取り組んでいきたいと統括していただきました。

総括・ポスター賞発表・閉会

「瀬戸内海の昔と今ー暮らしの移り変わりから将来を考えるー」をテーマに2日間に渡って開催されましたフォーラムの成果について、武岡運営委員長より総括が行われました。それぞれのセッションが深い内容であり、大変興味深い内容でした。今回のように多分野の研究が本フォーラムに加わっていただいたことは、研究会議を通じて、今後の分野横断型連携研究の糸口をつくる機会になったと思います。



また、若手・研究者を対象としたポスター賞として最優秀賞1名、優秀賞2名の受賞者を決定し、柳理事長より表彰を行いました。



◆最優秀賞

- 孟宗竹を用いたアサリの育成試験ー新たな流域連携手法の検討ー
山口県環境保健センター 環境科学部 惠本 佑

◆優秀賞

- 指標評価手法と分類調査の組合せによる簡易な海岸漂着ごみ調査方法の提案
香川県環境森林部環境管理課 田所 史法
- 絵画の内容変化からみた幼児向け海辺環境学習の効果について
徳島大学大学院先端技術科学教育学部 松重 摩耶

最後に、瀬戸内海研究会議の多田邦尚副理事長（香川大学教授）より閉会あいさつを行い、フォーラム開催協力への御礼を申し上げるとともに、来年の「瀬戸内海研究フォーラム in 京都」への参加が呼びかけられました。

